



## 短期留学参加者体験談

### 輔仁大学（台湾）

《2年 国際交流学科グローバル社会コース 2021年度参加（オンライン）》  
教科書は台湾や中国の日常、文化を基にしており、そこから台湾の日常・文化について学ぶことが多かったです。観光に行っただけではつかめないような、現地の文化や考え方に触れることができ、大きなカルチャーショックを受けました。例を上げれば、現地の大学生の生活や日本とは違う賃貸の条件、建築物の違い、お祭りや行事とそれを行う意味など、些細なことですが現地に行けないながらも台湾について深く知れたような気がします。

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2021年度参加（オンライン）》  
オンラインだとコミュニケーションが難しく、緊張もするかなと思いましたが、実際に経験してみると特に問題もなくスムーズに学習ができました。現地の先生ともコミュニケーションを取ることができたり、自分から中国語の発音など質問したりすることもできました。クラスは先生を含めて3人だったため、リラックスして勉強できました。オンラインだと、資料や動画などもすぐに画面上で共有できるのも良かったと思います。

《2年 史学科日本史 2019年度参加》  
日本よりも先生と学生の距離が近く、クラス全体の授業に対する積極性が印象的でした。私は研修言語である中国語が得意ではなく、ほぼ1から学ぶ状態での留学でした。ですが、先生とクラスメイトの授業に対する意識とモチベーションがとても高く、自分自身も積極的に学ぶ姿勢をとることができ、想像の何倍も充実して中国語を学ぶことができました。

《3年 英語英文学科 2019年度参加》  
短期留学で印象的だったのは、台湾の国民性です。台湾の方は、思いやりがあり、いつでも親切に接してくださいました。道に迷った時には、現地の方から声をかけてくださいました。私たちが外国人であることを理解してジェスチャーを交えながらゆっくり話してくれたので、コミュニケーションをお互いにとることが出来ました。ですので、今後は困っている外国人の方を見かけた際には、私も勇気を出して声をかけたいと強く感じました。

《2年 人間関係学科 2019年度参加》  
授業では、意味が理解できず、返答に困っているとクラスメイトや先生がわかるまで丁寧に教えてくれたので、授業においていかれることはありませんでした。困ったことは、授業で使うのは簡体字ではなく繁体字なので、最初の1週間は繁体字に慣れることに費やしてしまったことです。授業の後半になるにつれて、最初のころとは見違えるほど、先生の話している中国語が聞き取れるようになっていたのが自分でも驚いています。中国語をインプットするだけでなく、アウトプットすることで自分のものになっていたのだと感じました。

(※写真はすべて 2019 年度参加者提供)

